

フロウエルマガジンコラム #10

2008年11月号

『感謝の気持ち』

12月1日付けで株式会社フロウエル第2代代表取締役社長に就任することとなりました。数日後には、新世代が正式に経営を引き継ぐこととなりますが、創業世代が培ってきたフロウエルのフィロソフィを大切に守り発展させていきたいと思っております。

これまで私が代行してまいりました総務部長職を36期から労務担当のH次長に引き継ぎます。2期担当した総務部長の仕事は、経営執行役との兼務となったので、お世辞にも上手にできたとは言えないのですが、自分自身の知識吸収には大変役立ちました。突然総務部長を代行しなければならなくなったのは、まったく想定外のことでした。それほど難しいことでもないだろうと甘くみていたところがあり安易に引き受けたのですが、実際に総務部の中に入ってみると、このセクションがいかに会社を機能させる上で不可欠な存在なのか日々実感することになりました。世の中には色々な業界、様々な企業形態があるので、営業部や技術部が存在しない企業もありますが、総務機能をまったく持たない会社はおそらくないはずです。

経営企画室が社長の直轄にあって、人間でいえば脳ミソにあたる機能を担っているのに対して、総務部の仕事は心臓のようなものでしょうか。動脈を通して企業の血液であるマネーを全社に流し、静脈を通して返ってくる申請書や精算書进行处理してまたマネーを流すポンプの役割に似ています。人間にとって心臓がそうであるように企業にとって総務業務が止まってしまうことは、1日たりとも許されません。人は普段心臓がしっかり動いていると意識することはありません。総務部の仕事も大きなドラマはなく、日々こなすべき仕事をミスなくきちとこなす、実は結構頑張っていることを他部署に対して意識させないところにある種の美しさがあります。

私も営業部だったころは、毎日汗水たらしている感があり、体育会系の自分にはぴったりだと思っていた。それに比べて総務部は楽勝そうに見えたものです。しかし実際やってみるとこれほど多くの仕事をこなしているのかと驚くばかりです。自分でも勉強しなければならなかったことが多く、特に労務関連の仕事においてそうでした。労働基準法やその

他諸々今まであやふやだったことがいかに多かったのか思い知る2年間となりました。

裏方ではどのような仕事をしていて、全社のどの部分にどういった類のマイナートラブルが起りやすいのか、どう解決していくべきなのかということ現場の中で観察・考察できたのは得がたい経験でした。そして各部署でそれぞれ違う事情に対して公平でバランスのとれたルールを作っていくという仕事に携わることが出来ました。そういう意味で社長になる前に総務部にいられたことは、非常に幸運だったと心底思います。

フロウエルの総務部を構成する各メンバーは、それぞれがプロフェッショナル領域を持っている優秀な人たちです。私のような総務の素人があぐらをかいていられたのも、これら優秀なスタッフがいてくれたおかげですので、来月からは安心して引き継ぎをし、任せていけると確信しています。これからも会社の機能健全性を保つため、縁の下の力持ちでいてください。2年間どうもありがとう。

私は来月経営のトップに立ちますが、ゴングが鳴る前からいきなり存亡をかけた戦いをしているのが今現在の状態です。注1 「大袈裟だな」と感じた人がいれば、温度差が生じていて危険な兆候です。なぜならばしばらくは続くだろうこの状況を切り抜けるために、社内の団結がなによりも必要だからです。今のような特殊な環境下では、これまで必要なかったような我慢をしなければならないケースもでてきますが、社内にもし余計な不協和音を鳴らすような社員がいると、生き残れるものも生き残れなくなります。皆さん一人一人が自分の会社の為は何をするべきなのか、何をしてはいけないのかよく考えて行動してください。その努力は、必ず実ります。また、全スタッフ皆で我慢してくれた分は、感謝の気持ちを込めて、後日必ず報いることを誓います。

宜しく申し上げます。

注1 2008年9月に起こった世界金融危機いわゆる「リーマンショック」は、フロウエルの所属する半導体業界でも大きな影響を受け、フロウエルの売上はこのコラムが載った2008年11月に前年同月対比で63%ダウンだった。フリーフォール状態が漸く底を打ったのは、2009年5月で2008年11月から更に51%ダウンして止まった。